



令和7年11月17日  
株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
代表取締役社長 野崎 秀則

## 令和6年度全建賞を受賞

### 都心部における基盤整備のあり方～国道246号渋谷駅周辺整備～

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）が計画・設計・施工検討等に関わった「都心部における基盤整備のあり方～国道246号渋谷駅周辺整備～」が、一般社団法人全日本建設技術協会の令和6年度全建賞を受賞いたしました。

国道246号を中心とした渋谷駅周辺道路空間は、鉄道交差部分の幅員の不足による渋滞の発生や東西2カ所の狭い幅員の横断歩道橋では、朝夕のラッシュ時に昇降階段に歩行者が密集するなど、道路機能として多くの課題を抱えていました。このため、国道246号渋谷駅周辺道路空間に対しても地下鉄13号線の整備計画と東急東横線の地下化と副都心線との相互直通計画より始まった渋谷駅周辺の100年に一度の大規模再開発と一緒に、整備を進めることとなりました。当社は国道246号渋谷駅周辺にかかる基盤（国道、横断歩道等）の整備にかかる計画、検討、設計等を実施しました。具体的には、①国道246号の拡幅計画、設計、施工計画、②東口交差点地下及びデッキ歩行者施設の計画・検討、③西口交差点地下及びデッキ歩行者施設の計画、設計、施工計画、さらに④駅周辺国道空間と東西のデッキ及び地下空間デザイン、および誘導サイン等の検討、設計、⑤これらにかかる設備検討、設計を実施しました。

これらの計画、検討、設計等については、国道の周辺再開発事業者を含む非常に多くの関係者との調整、関係する多くの委員会の意見を踏まえ行いました。また、施工方法等の検討では⑥周辺開発ビルの計画、再開発に伴う歩行者動線・歩行者数の変化を考慮した施設整備計画と施工方法の検討を実施し、あわせて⑦他事業に伴う交通規制の影響に対し、連続する交通規制の課題の有無、解決のための施工規制調整案などを検討しました。

今後、都市内施設の再構築における基盤整備は、より新しい機能や新しいまちの一部となるよう、施工中の状態を含め、安全性、回遊性、利便性、快適性を確保し、まちの再構築と一体となった基盤整備計画が必要になると考えます。

私たちはこれからも基盤整備がまちづくりにおいて優れた機能を發揮できるよう、周辺関係者と調整しながら事業に参画していきたいと思います。

#### 全建賞とは

全建賞は、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたものです。昭和28年（1953年）の全建賞創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々の国民ニーズに沿った幾多の取り組みに授賞がなされてきました。

<https://www.zenken.com/hyousyouth.html>

<本資料に関するお問い合わせ先>  
株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011  
<https://www.oriconsul.com/>  
統括本部 伊藤・日原・丸山・門司

## 令和6年度全建賞（一般枠 道路部門）

□ 事業名：都心部における基盤整備のあり方  
～国道246号渋谷周辺整備～

□ 受賞機関：国土交通省 東京国道事務所

□ 賛助会員：東急建設(株)、JFEエンジニアリング(株)、セントラルコンサルタント(株)、  
(株)オリエンタルコンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ(株)、  
中央復建コンサルタンツ(株)、(株)福山コンサルタンツ

### □ 事業概要と評価

国道246号渋谷駅周辺整備は、歩行者空間の不足解消や動線の改善を図るもので、地下歩道等の整備と拡幅により利便性・快適性・交通安全性の向上を目指した。官民連携での整備、費用負担、維持管理を通じて、事業の目的である歩行者動線の安全性・回遊性向上などを実現した取り組みであることが評価された。

